

## 第7回(平成22年度)協会活動有功賞表彰

協会活動有功賞は、当協会の運営、事業などの活動で顕著な貢献のあった者を表彰することにより、会員の協会活動に対する参加意欲の増大を促すとともに、協会活動の更なる発展を図ることを目的として創設されたものです。

おおにし ひろし  
大西 宏司 氏 ((株)ニッカトー)

### 関西支部での行事企画運営・交流推進による活動活性化への貢献



大西宏司氏は、平成16年に関西支部の企画委員に就任以来(平成22年現在も引き続き企画委員)、関西支部主催の各種行事担当として活発に活動した。この間、交流タイム、若手フォーラム、学術講演会、新年特別講演会の行事担当を歴任し、特に平成21年度の若手フォーラムでは、代表幹事として企画立案および実施の先頭に立ち行事を推進した。この回の若手フォーラムでは、大学および企業のベテランから若手に向けた講演を盛り込んだ。その結果、講演後の質疑は非常に活発なものになった。また、日本セラミックス協会会員以外の企業へ広告依頼するという新たな視点に立ち、例年以上の広告掲載を実現した。

平成18年以來、支部の役員候補選考委員としても支部運営に深く携わった。ニューセラミックス懇話会など他学協会の委員も併任し、それらの活動を通じて培った人脈を通して、先に述べた各行事での講演者や講演テーマの提案、広告宣伝を活発に行い、より一層関西支部活動の活性化を促した。このような活動を通して関西支部行事の活性化に貢献してきたことは、協会活動有功賞に値するものと考え、ここに推薦する。

**略歴** 昭和56年京都工芸繊維大学工学部無機材料工学科卒業、工学博士、同年日本化学陶業(株)(現(株)ニッカトー)入社、平成10年同社研究開発部長、同15年理事研究開発部長、同22年取締役研究開発部長。

たかし りゅうま  
高 竜磨 氏 (昭和電工(株))

### アルミナ認証標準物質作製及び環境影響成分分析用協会規格作成



高 竜磨氏は、昭和電工(株)分析物性センターに在職中、日本セラミックス協会原料部会(現資源・環境関連材料部会)分析分科会に参加し、平成18年度からは幹事1期、無任所幹事1期を務めた。幹事在任期間に、アルミナ認証標準物質の作製に主体的に取り組み、日本セラミックス協会ですべて初めてISOガイド34他(JIS Q0034他標準物質生産者の能力に関する一般要求事項)を満足するアルミナ認証標準物質の作製に貢献した。無任所幹事時代には、環境影響成分の化学分析方法に関する日本セラミックス協会規格作成に尽力し、「ファインセラミックス用アルミナ微粉末中の環境影響成分の化学分析方法」(JCRS 109-2006)を始めとして、炭化ケイ素(JCRS 110-2007)および窒化ケイ素(JCRS 111-2008)の規格作成に大いに貢献した。

その他、日本セラミックス協会を代表して「蛍光X線分析方法通則」(JIS K 0119-2008)、「化学分析方法通則」(JIS K 0050-2011)の改正にも参画し、主導的役割を果たした。

以上の通り、日本セラミックス協会分析分科会活動を通じてセラミックス化学分析技術の向上と発展・普及に大きく貢献しており、協会活動有功賞に十分値するものとして推薦する。

**略歴** 昭和60年九州大学大学院理学研究科化学課程修了。同年昭和電工(株)総合技術研究所分析物性センター入社、平成11年同社生産技術本部品質保証部、同14年同社技術本部分析物性センター長、同21年同技術本部(現生産技術本部)品質保証室。